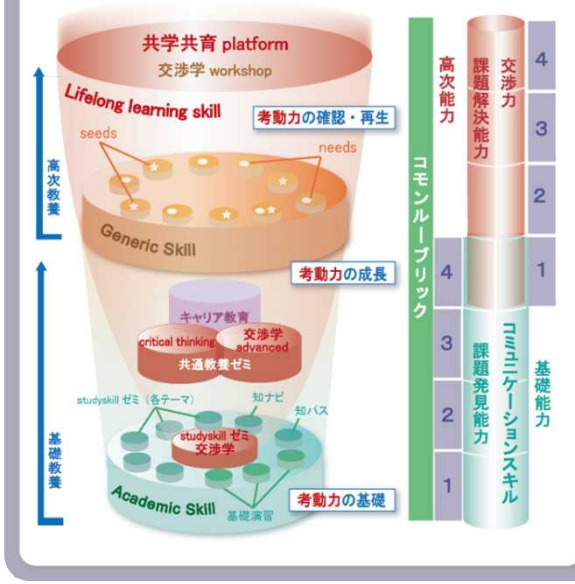
大学等名：関西大学
テーマ　：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）・Ⅱ（学修成果の可視化）複合型

取組概要

本事業は、21世紀を生き抜く考動人<Lifelong active learner>育成を図るものである。社会から要請される能力の育成には、高次教養教育の展開や、教養教育と専門教育の連環が必要である。汎用的技能や批判的思考力等を育成するために、交渉学等を主題とした科目・ゼミ・ワークショップ（WS）を開設する。これが、専門教育（ゼミ等）と初年次教育とを有機的に接続する拠点となる。これと並行して、この考動力を形成的に評価するコモンルーブリックを開発し、教育学習活動の成果を可視化するとともに、学修行動・到達度を間接・直接評価の両面から調査する。これらの活動を通じて、学修コンシェルジュ育成・教員コミュニティ形成を視野に入れた全学的なFD・SDを更に充実させる。

取組のポイント

Lifelong active learner 育成関係図



取組の背景・課題

本学では、これまでは主として初年次教育においてアクティブ・ラーニングの普及を推進してきた。また、キャリア管理力の基礎を修得するための機会も提供してきた。今後、社会からの期待に応え続けていくためには、「特定の課題に取り組むチームワーク体験」「実社会とのつながりを体感できる教育」等、教育の内容と方法をさらに工夫することが必要である。とりわけ、DOTSモデルに示される意思決定学習(Decision Learning)や環境適応学習(Transition Learning)の機会保障が求められている。

テーマⅠ　高次教養のための科目の設置

①交渉学・クリティカルシンキングに関する科目の開設
②交渉学ワークショップの実施

テーマⅡ　コモンルーブリックの開発・検証・改善

①「基礎能力」「高次能力」それぞれ4段階のコモンルーブリックの開発
②学修行動・到達度調査の開発・実施

共通　新しいかたちのFD・SDプラットフォームの構築

①全ステークホルダー参加の交渉学に関する学習会・研究会の実施
②学修コンシェルジュの育成
③同僚性にもとづいた教員コミュニティを醸成・新たな学生スタッフの育成

効果　本事業による大学全体への影響（大学改革の推進）

- 創造的な交渉力を備えたリーダーや、専門ゼミナールのファシリテーターを育成し、学部内・学部間のゼミ交流を誘う基盤を構築する。
- 実践的なコモンルーブリックの開発と、実際的な学修行動調査を実施し、学生の自律的な学修行動に資する。
- 全学的な規模で、教職協働に基づいた継続的な教育改善を展開する。

事業の成果

	25年度	28年度（目標値）	30年度（目標値）
アクティブ・ラーニングを受講する学生の割合	87.9%	87.9%	87.9%
学生の授業外学修時間	※下記参照	5時間	6時間

※1時間未満：36.5%、1～2時間：32.7%、3～5時間18.5%、6～10時間：6.7%。